

- 一、もくひようを、はやく、みいだしますこと。
- 二、てきとうに、よいばしよを、ねらみまして、しやげきのしよら、とちを、りようしますこと。
- 三、もくひようを、てきとうに、じぶんで、ねらみますこと。
- 四、てきまでの、きよりを、みてはかりますこと。
- 五、しやげきをして、あたるかどうかと、いふことを、かんがえますこと。
- 六、きよりに、ねらじましてかけべき、しよらしやくや、しよらじゆんをすべきてんを、ねらみましたり、あるひわ、これを、なほしたりしますこと。
- 七、たとね、どんな、しせいを、とりましても、じゆうを、

かまぬますのを、はやくしまして、なほそれを、しつかりと、とりますこと。

- 八、ごく、わずかのじかんのあいだに、ていねいに、しよらじゆんを、しまして、ねちついで、たまを、うちますこと。
- 九、まへに、すゝんだり、とまつたりします、どうさを、すばしくしますこと。

第八十(第九十五) 應用射撃ハ下士兵卒悉ク之ヲ施行

スヘシ而シテ此射撃ハ基本射撃ノ大部ヲ終ヘタル後ニ於テ行フヘキモノナリト雖己ムヲ得サレハ初年兵以外ノ者ニ在リテハ其時期ヲ換フルコ

トヲ得

此射撃ノ爲配當セラレタル彈藥ハ一回若ハ三回  
 (教育召集補充兵ハ一回)ニ使用スルモノトス  
 ねうようしやげさわ、かし、へいそつ、のこらず、これを、  
 するので、あります。このねうようしやげさわ、さほんしや  
 げさの、あらかたをすませましたのちに、ねこなひます、も  
 のでわありますが、よんどころのないときにわ、しよねんへ  
 いのほかのものわ、そのときを、かゝることが、できるので、  
 あります。

このねうようしやげさのため、わたされました、たまわ、

にかいかもしくわさんかい(きよういくしよしゆのほじゆ  
 うへいわ、いつかい)につかう、もので、あります。

第八十一(第九十六) 應用射撃ニ於ケル

- 一、目標ノ種類
- 二、員數
- 三、及距離
- ハ
- 一、射手ノ伎倆
- 二、銃ノ精度(單一銃ノ射彈散布界参照)

三、及使用彈數

ヲ顧慮シテ決定スヘキモノニシテ射手ヲシテ其  
伎倆ト銃トニ信用ヲ置カシムルヲ要ス

れうようしやげさに、ねさましてわ。

一、もくひようのいろくのとぐい。

二、もくひようのいんず。

三、ねよび、もくひようまでの、きより。

わ。

一、しやしゆのもつてねります、わざの、じようず、へた。

二、じゆうの、こうりよくの、あるぐあひ。(ひんどの、入ります、

ひとつの、じゆうて、しやげさを、しましたとき、そのた  
まがちります、ぐあひが、かいてあります、すとみくらべ  
ること)

三、ねよび、この、しやげさに、つかいます、たまのかず。  
などを、よくかんがねて、さめるもので、ありまして、しや  
しゆにそのじぶんの、しやげさをしますわざと、じゆうとを、  
たよりとしますように、しなければ、なりません。

標的ハ通常人像的ヲ用フルモノトス  
まとうわ、ふつう、ひとのかたちを、しました、ひようてき  
を、つかうので、あります。

| 距離   | 單一銃ノ射彈散布界表 |      | 約半數以上命中ヲ期シ得ヘキ標準 |
|------|------------|------|-----------------|
|      | 總彈ヲ含ム方形    | 縱橫   |                 |
| 二〇〇米 | 〇、五二       | 〇、四八 | 頭首ノミ現ハシタル兵      |
| 三〇〇  | 〇、七六       | 〇、七二 | 伏姿兵             |
| 四〇〇  | 一、〇四       | 〇、九六 | 膝姿兵             |
| 五〇〇  | 一、二八       | 一、二〇 | 立姿兵或ハ密集セル二人膝姿兵  |

|     |      |      |              |
|-----|------|------|--------------|
| 六〇〇 | 一、五六 | 一、四四 | 密集セル二人立姿或ハ騎兵 |
|-----|------|------|--------------|

### 單一銃ノ射彈散布界表

ひとつの、じゆうて、しやげさをしましたとき、たまが、ちりますひつさを、づにかいて、あらわしたもので、あります。

### 總彈ヲ含ム方形

うつたのこらずのたまが、はいります、しかくのかたちと、いふことであります、このひようわ、百ばつうつたことにして、しめされてありますので、そのしかくのかたちが、たてと、よことに、わけられて、あります。

約半數以上命中ヲ期シ得ヘキ標準

百ばつのうちで、ねよそ、はんぶんいじようわ、あてることが、できます、さじゆんのことて、あります。

表ノ説明

いまこのひようを、二百めーとるについで、せつめいをしますと。

二百めーとるのさよりて、ちやんと、しやげきをしますと、百ばつ、うちまして、たまわ、たてのながさが、五十二さんちめーとるで、よこのながさが四十八さんち、めーとるのしかくいかたちのなかに、みんな、はいりますので、かしらばかりを、だしてねります、てきにわ、そのうち、五十ばつ。

いじようわ、あてることが、できると、いふので、あります。

第八十二(第九十七)

應用射撃ヲ行フニハ士官若ハ准

士官ヲ教官トス

ねうようしやげきを、ねこないますのにわ、しかんか、もしくわ、とくむそうちようを、さようかん(ねしへるひと)と、します。

射手ノ教育ヲ精密ナラシムル爲、一名毎ニ射撃

セシムルヲ必要トス然レトモ狀況已ムヲ得サレ

ハ同時ニ若干名ヲ出シテ射撃セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ、毎射手ニ教官ノ補助官一名ヲ附シ、尙各自ノ命中ヲ混同セシメサル爲目標ハ少クモ五米ヲ隔テテ各射手毎ニ各別ニ之ヲ設置スヘシ

しやしゆう、ねしへますのに、ごくでいぬいに、しますため、ひとりづつ、しやげさを、させますことが、ひつようで、あります。しかしながら、そのときのように、しかたがない、ときにわ、いつしよに、いくらかのものを、だしまして、しやげさを、さしても、よいので、あります。このときにわ、ひとりのしやしゆうごとに、きようかんの、てだすけをします、

第八十三(第百) 一、射手ノ服装

ものね、ひとり、つけまして、なほ、めいくの、あたつた、たまを、ませこぜに、しません、ために、もくひようわ、すくなくも、五めーとるのあいだを、あけまして、ねのく、しやしゆうごとに、へつづくに、これをたてるので、あります。

二、並危害ノ豫防

三、及監的勤務ニ關スル諸件

ハ戦闘射撃ニ準ス

- 一、しやげさを、するものの、なり。
- 二、ならびに、きけんを、まねもつて、ふせがますことがら。

三、たよび、かんできの、つとめに、かんけいをして、ねり  
ます、いろくの、ことがら。

わ、せんとう、しやげきのに、ならつてするので、あります。

### 第六章 戦闘射撃

#### 第一節 要則

#### 第八十四(第一百)

戦闘射撃ハ實包ヲ以テスル部隊ノ

戦闘教育ニシテ最も重要ナルモノトス、即チ

一、指揮官ヲシテ諸種ノ戦況ニ應スル射撃指揮

ニ慣熟セシムルト同時ニ

二、兵卒ヲシテ射撃軍紀ヲ確守シ實戰的射撃ニ

#### 熟達セシムルヲ目的トス

せんとうしやげきと、いひますのわ、じつだんを、つかい、  
まして、ぶたいに、いくさのしかたを、ねしへます、ものであ  
りまして、もつとも、たいせつな、ことで、あります。すな  
わち。

一、ぶたいを、さしずをしますものに、いろくの、いくさ  
の、ようすに、よりまして、これにたいします、ときとら  
な、しやげきの、さしずに、なれさせますと、どうじに。  
二、へいそつに、しやげきの、ぐんき(いくさのなかで、し  
やげきにかんけいをしました、いろくの、めいれい、

どうさを、よく、まもりまして、よく、ならつたとうりに、  
じゆうをちやんと、とりあつかうことでもあります(を、ち  
やんと、まもりまして、じつさの、いんさのとさにしま  
す、しやげきの、しかたに、なれさせますのが、もくてき  
で、あります。

第八十五(第百二) 戦闘射撃ハ通常

- 一、分隊
  - 二、小隊
  - 三、中隊
- ヲ以テ之ヲ行フ

せんとうしやげきわ、ふつう。

- 一、ぶんたいの、へいりよく。
  - 二、しようたいの、へいりよく。
  - 三、ちゆうたいの、へいりよく。
- で、これを、ねこなうので、あります。

第八十六(第百四) 分隊ヲ以テ行フ戦闘射撃ハ

- 一、射手ヲシテ散兵線ニ於ケル
- 1. 協同動作ト
- 2. 射撃軍紀トニ

慣レシメ



二、且分隊長ヲシテ其職責ヲ習得セシムルニ在

リ

ぶんたいのへいりよくで、ねこないます、せんとうしやげさ  
わ。

一、しやげさを、しますものをして、さんぺいせんで。

1. たがいに、ところを、あわせまして、どうさをするこ  
と。

2. しやげさのぐんきとに。

なれさせまして

二、なほ、そのうねに、ぶんたいちようをして、その、じぶ  
んの、しよくむを、ならひ、ねぼねさせる、ためて、ありま

す。

第八十七(第一百五) 小隊ヲ以テ行フ戦闘射撃ハ

一、小隊長ヲシテ

1. 中隊長ヲ輔佐シ

2. 射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ

3. 又要スレハ獨斷ヲ以テ小隊ノ射撃指揮ヲ完

全ニ實施シ得ル如ク

習熟セシムルト共ニ

二、分隊長ノ

1. 教育程度ヲ進メ

2. 適當ニ小隊長ヲ輔佐シ得ルノ能力ヲ養成ス

ルニ在リ

しようたいの、へいりよくて、ねこないます、せんとうしやげさわ。

一、しようたい、ちようをして。

1. ちゆうたいちようのする、しごとを、たすけまして。

2. しゃげさを、いろく〜てきとうにさせ。

3. また、ひつようの、ばあいにも、じぶん、ひとりの、かんがえて、しようたいの、しゃげさに、かんけいを、し

ました、さしずを、ちやんと、することが、てきまつまうに。

なれさせますのと、いつしよに。

二、ぶんたいちようの。

1. きよういくを、もつと、しまして。

2. てきとうに、しようたいちようのする、しごとを、たすけてすることの、てきまつ、かんがえを、やしなうのであります。

第八十八(第一百)

戦闘射撃ニ於テハ主トシテ中距離

(六百乃至千米)ニ在ル低キ散兵ニ對スル射撃ヲ

演練セシムヘシ然レトモ

一、其他ノ目標ニ對シ

二、又遠距離(千米以上)

三、稀ニハ近距離(六百米以内)

ニ於テモ此射撃ヲ行フヲ可トス

但分隊ノ射撃ニ在リテハ概ネ八百米以内ノ距離

ニ於テ行フモノトス

せんとうしやげさにねきましてわ、ねもに、ちゆうさより(六百めーとるから、千めーとるのさよりのあいだ)に、ねりま

す、ひくい、しせいをして、ねります、さんべいに、たいしまして、します、しやげさを、させるので、あります。しかながら。

一、そのほかの、もくひように、たいしましては。

二、また、ねんさより(千めーとるより。いじょうの、さより)

三、たまにわ、さんさより(六百めーとるより、ちかい、さより)。

に、ねきまして、この、しやげさを、するのがよいのであります。

たとし、ぶんたいのへいりよくで、します、しやげさわ、たが、い、八百めーとる、いないのさよりで、ねこなうもので、

あります。

第八十九(第百十二) 分隊、小隊ノ射撃ニ在リテハ中

隊ノ幹部ハ勉メテ出場スヘキモノトス

ぶんたいや。しようたいの、へいりよくてします、しやげき  
てわ、ちゆうたいの、ねもだつた、ものは(たいがいぶんた  
いちよう、いじようのこと)なるだけ、そのばにでるもので  
あります。

第九十(第百十二) 戦鬪射撃ニ於ケル指揮官以下ノ服

装ハ軍装ニシテ、下士以下ハ毛布、及携帯天幕

ヲ除キ其負擔量ハ概ネ戦時ニ等シカラシムヘシ

せんとうしやげきに、ねさまして、しきかんいかの、なりわ  
ぐんそうて、ありまして、かしいかのものわ、もうふ、ねよ  
びけいたいてんまくを、そのうちから、とりさりまして、そ  
の、ねもさわ、あらまし、いくさのとさと、ねなじように、  
するので、あります。

第二節 實施

第九十一(第百二十) 射撃指揮ト相俟テ射撃ノ効果ヲ

偉大ナラシムル爲緊要ナルモノハ、射撃軍紀ナ

リ

抑モ射撃軍紀トハ

一、戦闘動作中、射撃ニ關スル命令ト動作トヲ  
確實ニ實行シ

二、銃ノ使用法ヲ嚴守セシムルヲ謂フ

しやげきの、さしすと、いつしよに、しやげきの、こうりよ  
くを、たいへんに、ねほさくしますために、かんじんなもの  
わ、しやげきの、ぐんきで、あります。

いつたい、この、しやげきのぐんきと、いひますのわ。

一、いくさをします、どうさのうちで、しやげきに、かんけ  
いを、してねります、いろくのめいれいと、どうさのうちで、

ちやんと、たしかに、ねこない。

二、じゆうの、つかいかたを、きびしくまもらせる、ことを、  
いふので、あります。

第九十二(第二百二十一) 射撃ニ方リテハ

一、己ニ對スル正面ニ射撃スルヲ最モ容易ナリ  
トシ

三、其左右各々十五度以上ニ銃ヲ指向シテ發射  
スルハ困難ナリ

故ニ射撃スル部隊ノ正面ハ目標ニ對スル方向ト

成ルヘク直角ナラシムルコト肝要ナリ

しやげきを、しますときにわ。

一、じぶんにもかいました、その、まつすぐまへのほうに、しやげきをしますのが、いちばん、たやすい、もので、ありまして。

二、その、しょうめんから、ひたりとみぎの、ほうに、たのしく、どちらでも、十五どいじょうのほうにかくどを、とりまして、じゆうを、さしむけまして、たまを、うちますことわ、こんなんで、あります。

それゆゑにしやげきを、します、ぶたいの、しょうめんわ、その、もくひようが、あります、ほうこうと、なるだけ、ま

つすぐに、させることが、かんじて、あります。

第九十三(第百二十一) 每發必中ヲ期シテ射撃セシム

ルハ散兵ニ要求スヘキ要件ナリ而シテ散兵ハ示サレタル目標ノ幅員中己ニ對向セル部ニ於テ比較的明瞭ナルモノヲ射撃スルモノトス

たまを、うつたびに、かならず、あてるといふ、かんがゑを、もつて、しやげきを、させますことわ、さんべいに、させなければ、なりません、ひつようの、ことがらで、あります。それで、さんべいと、なつた、ものわ、しきかんから、しめされました、もくひようの、はばのうちで、じぶんにも、むき

あつて、ねります、ものうちで、なかで、はつきりと、してねりますものを、しやげき、するので、あります。

第九十四(第百二十三)

敵ノ散兵線ノ後方ニ近ク有利

ノ目標現出スルモ更ニ之ニ對シテ銃ヲ指向セシ

メサルモノトス是散兵線ニ對向セラレタル集束

彈ニ依リ通常併セテ効力ヲ收メ得ヘケレハナリ

てきの、さんべいせん、うしろにすぐちかく。よい、よくひようが、あらわれましても、べつだんに、このもくひように、たいしましてわ、じゆうを、さしむけ、させないので、あります。これともうしますのわ。さんべいせん、ほうに。

むけて、うつて、ねります、たまに、よりまして、ふつうわ、いつしよに、あてることが、できる、からで、あります。

第九十五(第百二十四)

機關銃ニ對シテハ

一、其運動中

二、或ハ陣地進入

三、若ハ撤去ノ際

等ニ於テ射撃スルヲ最モ有効ナリトス又陣地ニ在リテ遮蔽セル機關銃ト雖其所在ヲ確認シ得ルトキハ中距離ニ在リテモ尙効力ヲ期シ得ルモノ

トス

きか感じゆうに、たいしましてわ。

一、それが、うんどうをして、ねりますとき。

二、あるひわ、じんちには、はいりますとき。

三、もしくわ、じんちから、わさね、さりますとき。

などに、しやげきを、しますのがいちばん、こうりよくが、あります。また、じんちに、ついて、ねりまして、かくれて、ねります、きか感じゆうでも、そのありかを、たしかに、みとめることが、できました、ときにわちゆうさよりの、ところでも、なほ、こうりよくを、うる事ができるもので、あります。

第九十六(第九百二十五)

集束弾ノ稠密部ヲ目標ニ導カ

ンカ爲、採用セントスル照尺度ガ若照尺分畫ノ

中間ナルトキハ其照尺度ニ近キ照尺ヲ以テ射撃

スルモノトス又距離ノ増加スルニ從ヒ被弾地ノ

縦長漸次短縮シ且天候、氣象ノ射距離ニ及ホス

影響竝距離ノ誤測モ漸次増大スルヲ以テ約千米

以上ニ在リテ距離ヲ確知シ難キトキハ百米ノ差

アル二種ノ照尺ヲ採ルヲ可トス

しゆうそくだんの、いちばん、こんで、ねります、ところを



もくひように、むけますために、もちいます、しようしやくの、どあいが、もしも、しようしやくに、さざまれて、あります、すじとすじとの、あいだ(たとへば七百四十めーとるとか、八百六十めーとる)に、ありますときにな、そのしようしやくのどに、ちかい(たとへば、七百四十めーとるなれば、七百のしようしやくで、八百六十めーとる、なれば、九百のしようしやく)しようしやくを、かけまして、しやげさを、するもので、あります。また、きよりがましてゆきますのに、したがひまして、たまが、ねちますとちの、たてのながさわ、だんぐと、ちとまりまして、なほ、てんさや、くうきのしやきよりに、ねよぼしますねいさよう、ならびに、きよりのほ

かりそくない、なども、だんぐとねほさくなりますから、ねよそ、千めーとる、より、うねのきよりで、ありましてわ、そのへだたりを、たしかにすることが、できませんでしたときにわ、百めーとるの、ちがいのあります、ふたいろのしやうしやくを、かけるのが、よいので、あります。

第九十七(第百二十六)

射撃効力観測ノ爲ニハ目標ノ

前後ニ反跳スル彈丸ノ多寡ニ注意スルコト緊要

ナリ而シテ其観測ノ難易ハ主トシテ目標所在地

ノ地形ニ關スルモノトス

しやげきの、こうりよくの、ぐあいを、みてはかります、た

めにわ、もくひようの、まへとか、うしろとかに、はねか  
つて、とびます、たまのねいのと、すくないのにと、され  
つけますことが、かんじて、あります。それで、そのみ  
て、はかりますことの、むづかしいのと、やさしいのとわ、  
もくひようが、ねります、ところの、とちに、かんけいを、  
するので、あります。

一、低キ目標ニ對シテハ全跳彈ノ約二分ノ一

二、高キ目標ニ對シ約三分ノ一

チ目標ノ直前ニ認ムルヲ得ハ其射撃ハ良好ノ景  
況ニ在ルモノトス

一、せの、ひくい、もくひように、たいしましてわ、はねか  
えつて、みねます、のこらずのたまの、ねよそ、はんぶん  
ぐらい。

二、せの、たかいもくひように、たいしましてわ、その、み  
つわりのひとつ、ぐらい。

を、もくひようの、すぐまねのところは、みることが、でき  
ました、なれば、そのしやげさわ、よいようすに、あるので、  
あります。

第九十八(第二百二十七) 躍進スル敵ニ對シテハ通常其

運動中ニ照尺ノ變換ヲ行フコトナク射撃ヲ繼續

シ敵ノ停止ヲ待テ之ヲ改装スルヲ有利トス又前進シ來ル騎兵ニ對スルトキ七百メートル以内ニ於テハ照尺ノ變換ヲ要セサルモノトス

すゝんでわとまり、また、すゝんでわとまつて、すゝんで、きますすてきに、たいしましてわ、ふつう、そのうんどうをして、ねります、うちにわ、しようしやくを、かへなせんで、しやげさを、つゞけて、てきのとまりますのをまちまして、とまつたら、すぐ、これを、かゐるのが、とくて、あります。また、すゝんで、きます、さへいに、たいしましてわ、七百米一とるより、ちかくの、さよりてわ、しようしやくを、か

ねます、ひつようわ、ないので、あります。

延長セル散兵等横廣ナル目標ニ對シテハ通常左

右ニ於ケル照準ノ修正ヲ要セサルモ

一、狭小面ノ密集部隊

二、又ハ陣地ニ在ル砲兵ノ各砲

三、若ハ機關銃ノ各銃

ニ對シ射撃スルトキ、要スレハ之カ修正ヲ忽ニスヘカラス是集束彈ヲ目標外ニ逸出セシムルノ虞アルヲ以テナリ而シテ此修正ヲ行フニハ射線

ノ方向ニ關スル

一、風向

二、風速

等ニ注意スルヲ要ス

ながく、のびてまいります、さんべいのような、よこにひろい、もくひように、たいしましてわ、ふつうひだりとか、みぎとかのほうに、ねらいかたを、なれします、ひつようわ、ありませんが。

一、しようめんの、せまい、かたまつた、ぶたい。

二、またわ、ぢんちに、ついて、ねります、ほうへの、ね

のくのほう。

三、もしくわ、きかんじゆうのかくじゆう。

にたいし、まして、しゃげきを、しますとき、にわ、ひつようが、ありました、なれば、これにたいしまして、しようじゆんを、なほす、ことを、ねろそかに、してわ、なりません。これと、もうしますのも、そのまゝにして、ねさますときにわ、しゆうそくだんを、もくひようの、そとに、だしてしまします、ねそれが、あるからで、あります。それで、この、しようじゆんを、なほしますのにわ、じゆうこうをひきはしました、せんの、ほうこうにかんけいをします。  
一、かぜのむき。

二、かぜのはやさ。  
などに、きれつける、ことが、ひとつようで、あります。

第七章 特別射撃

第九十九(第一百二十八) 特別射撃ハ幹部及兵卒ヲシテ

益々射撃ニ精熟シ併セテ射撃ノ嗜好心ヲ喚起セ

シムル爲ニ行フモノトス

とくべつしやげさと、いひますのわ、かんぶのものれよび、  
へいそつ、たちをして、ますく、しやげさに、うまくなら  
せまして、それと、ともに、しやげさを、すす、このみます、

こゝろを、ねこさせます、ために、ねこなうもので、ありま  
す。

第八章 證明射撃

第一百(第一百二十九) 證明射撃ハ幹部及兵卒ヲシテ銃ノ

効力ヲ驗知シ竝諸種ノ射撃方法ヲ修習セシムル

爲行フモノニシテ聯隊若ハ大隊内ニ於テ之ヲ實

施スルモノトス

例へハ

一、夜間射撃

二、補助目標ニ依ル射撃侵徹量

三、及機關銃砲兵ニ對スル効力

ヲ證明スル爲ノ射撃等ノ如シ

しようめい、しやげきと、いひますのわ、かんぶと、へいそつに、じゆうの、こうりよくを、しけんてきに、しらせ、なほ、いろくの、しやげきの、しかたを、ならわせます、ために、ねこなう、もので、ありまして、れんたいとか、もしくわ、だいたい、これを、ねこなうので、あります。たとへて、みますれば。

一、よるねこないます、しやげきと。

二、ほじよのもくひようを、ねらいまして、します、しやげきの、たまの、つきとうります、ぶんりよう。

三、きかんじゆうや、ほうへいにたいします、しやげきの、こうりよく。

を、しようこ、だてます、ために、ねこないます、しやげきなどの、ような、もので、あります。

第百一(第百二十) 夜間射撃

夜間或ハ濃霧ノ際ノ如キ直接精密ニ照準シ能ハ

サルトキニ於テモ銃ヲ地面ト平行ニシ且正確ニ

据銃スルトキハ最近距離ニ於テ大ナル目標ニ對シ多大ノ効力ヲ收メ得ルモノトス

よるのしやげき。

よるのあいだとか、あるひわ、きりが、かゝつて、ねります、ときのように、すぐさま、ごくねんをいれて、ねらうことが、できません、ときに、ねましても、じゆうを、おめんと、ならぶ、ようにし、なほ、たゞしく、しつかりと、じゆうを、かまへ、ますときにわ、ごくちかい、きよりで、ねらなも、くひように、たいしましてわ、どつさりの、こうりよくを、うるものが、できるので、あります。

又胸墻ノ火線及頂斜面ニ横木ヲ概ネ平行シテ固定シ銃ニ必要ノ方向及傾度ヲ與ヘ得ル如ク之ニ溝ヲ鑿開スル等

- 一、胸墻上ニ銃ヲ依托スヘキ設備ヲ爲スカ
- 二、或ハ假標ヲ照準スル等

適宜ノ方法ヲ設ケ以テ豫メ射撃スヘキ地點ニ彈道ヲ導ク如クスルトキハ有効ナル射撃ヲ施行シ得ルモノトス此方法ハ成シ得レハ晝間ニ於テ豫

メ實包射撃ヲ以テ其適否ヲ檢知シ置クヲ可トス  
 また、さんぺいごうの、きようしようのところにある、かせ  
 んと、ちようしやめんとは、ふたつの、よこぎを、あらまし、  
 へいこうせまして、これをうごかないようにし、じゆうに、  
 ひつようの、ほうこうと、かたむきを、あたへることの、  
 できます、ように、これにみぞを、ほります、など。  
 一、きようしようのうねに、じゆうを、よせかけまして、し  
 やげきをするこの、てきるような、じゆんびを、します  
 とか。  
 二、あるひわ、かりのもくひよう、こしらへまして、これを  
 ねらいますなど。

てきとうの、ほうくを、もうけまして、まねもつて、し  
 げきを、します、とちに、だんどうが、いさますように、  
 しらねます、ときには、じゆうぶん、こうりよくのあります、  
 しやげきを、することか、てきるもので、あります。この、  
 ほうくわ、することが、できましたなれば、ひるまのうち  
 に、まねもつて、じつだんで、しやげきを試みて、そ  
 の、よしあしを、しらべて、ちくの、よいので、あります。

第九章、距離測量

第二百三十四 迅速且正確ナル距離ノ測定ハ射



撃効力ヲ發揚スルノ基礎ナリ故ニ兵卒殊ニ幹部  
 ハ絶エス之ヲ練習シ之ニ熟達セサルヘカラス  
 はやくて、なほ、たゞしく、たしかな、きよりの、はかりか  
 たわ、しやげきの、こうりよくを、あげます、もとて、あり  
 ます。それゆゑへいそつわ、もちろん、ことに、かんぶと、  
 なつたものわ、いつでも、これを、れんしゆうを、しまして  
 この、きよりを、はかることに、なれて、ねらねば、なりま  
 せん。

第百三(第百二十五)

距離測量法中正確ニ距離ヲ測定

シ得ルモノハ器械測量トス然レトモ最モ多クノ

場合ニ適用スヘキモノハ目測法ナリ

距離測量ハ各種ノ地形、天候及姿勢ニ於テ諸種

ノ目標ニ對シ練習セシムルヲ要ス

きよりを、はかります、ほうくの、うちて、たゞしくたし  
 かに、きよりを、はかることの、てきますものわ、きかいを  
 つかつてする、はかりかたで、あります。しかしながら、も  
 つとも、ねほくの、ばあいには、もちいることの、てきますも  
 のわ、めてみて、きよりをはかる、ほうくで、あります。  
 きよりの、はかりかたわ、いろいろの、とちや。てんきと、  
 ならびに、しせいでいろいろの、もくひように、たいしまし

て、れんしゆうを、させるのが、ひつようで、あります。

第百四(第百二十六)

兵卒ハ通常近距離ヲ目測シ得ル

ヲ以テ足レリトス然レトモ伎能之ニ適スル者ニ在リテハ特ニ中距離以上ノ目測ヲ練習セシムルヲ可トス

へいそのわ、ふつう、六百めーとるいないの、ちかいらより  
を、もくそくすることができれば、じゆうぶんで、あります。  
しかしながら、わざが、もくそくすることには、てきとうして、  
ねります、ものわ、とくべつに、六百めーとるから、千めー  
とる、ぐらいの、ちゆうさよりより、もつとさまの、さよりの、

もくそくを、れんしゆう、させるのが、よいので、あります。

幹部ハ一般ニ

- 一、近距離、中距離ノ目測ニ熟練シ
- 二、尙遠距離ヲ目測シ得ルノミナラス
- 三、器械ヲ使用シテ迅速正確ニ距離ヲ測知スル

慣熟スルヲ要ス

かんぶと、なつて、ねりますものわ。  
一、さんさよりや、ちゆうさよりの、もくそくに、よくなれ

まして。

二、なほ千めりとするいじょうの、ぬんきよりを、もくそく  
することが、できます、のみならず。

三、きよりを、はかります、さかいを、つかいまして、はや  
く、たゞしく、たしかに、きよりを、はかりますことに。

なれて、れることが、ひつようで、あります。

距離測量ノ熟練ハ絶エス之ヲ行フユトニ依リテ

維持セラルヘキモノトス

きよりを、はかります、ほうくくに、なれますのわ、いつて  
も、これをねこなつて、ねります、ことによつて、たもたれ  
て、ゆくものであります。

第百五(第百二十八)

步測ニ依リ距離ヲ測量スルニハ

一、先ツ自然ノ歩法ヲ以テ百米ノ長ヲ歩ミテ得

タル複歩數(二歩ヲ以テ一複歩ト謂フ)ヲ知得

セシメ

二、此ノ複歩ト測量スヘキ地上ヲ歩ミテ得タル

複歩數トヲ比較シ

其距離ヲ定ムルモノトス

ほそく(あるいてきよりを、はかること)によりまして、き  
よりを、はかりますのにわ。

一、まず、あたりまゐの、あるさかたで、百めゝとるの、な  
 がさを、あるさまして、なました、ふくほのかず(二ほを  
 一ふくほ、といふので、あります。)を、なほなさせまして。  
 二、このふくほのかずと、これから、はかるをとします、と  
 ちを、あるさまして、なました、ふくほのかず、とを、く  
 らべまして。

その、さよりを、さだめるので、あります。

第百六(第百二十九)

音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ

測量シ得ルユトアリ即チ天候平穩ノ場合ニ於テ  
 音響ハ一秒時間ニ約三百三十三米ニ達スルモノ

ナルヲ以テ三秒時間ニ一ヨリ十迄ノ數ヲ連呼シ  
 得ル如ク口調ヲ練習スルトキハ一個ノ呼唱ハ百  
 米ニ相當スルヲ以テ例ヘハ發光ヲ見テヨリ音響  
 ノ耳ニ達スル間ニ要スル時間ヲ口調ニ依リ測ル  
 トキハ其距離ヲ知ルヲ得ルモノトス

れとのひいて、つたわつて、ゆきます、はやさを、りよう  
 しまして、さよりを、はかることが、あります。すなわち、  
 てんきがごくよいばあいには、ひびきわ、一びようじかんに、  
 なよそ、三百三十三めゝとるの、さよりに、たつして、ゆく  
 ものであります、から、三びよう、じかんの、あいだに、一

から十までのかずを、つゞけて、となれることのできます、  
ように、くちようを、れんしゆう、しますときにわ、一から  
十まで、となへました、ときにわ、百めーとるに、あたりま  
すから、たとへて、みますと、ひかりをみましてから、れと  
が、きこねますまでに、かゝりました、じかんを、くちよう  
によりまして、はかりますときにわ、その、さよりを、しる  
ことが、できるので、あります。

第百七(第百四十) 目測ハ地上ノ長サト目標視像ノ景  
況ニ依リテ距離ヲ判知スルモノニシテ概ネ左ノ  
方法ニ依ル

- 一、數回ノ演習ニ依リ記憶シタル地上ノ距離、  
或ハ目前ノ某既知距離ヲ以テ測量スヘキ距離  
ニ比較シテ測定スルカ或ハ測量スヘキ距離ノ  
中央ニ一點ヲ定メ此點ニ到ル距離ヲ目測シ之  
ヲ倍シテ測定距離ト爲ス
  - 二、一定距離ニ在ル目標視像ノ明暗大小ヲ記憶  
シ以テ測量スヘキ距離ニ在ル目標及其附近ノ  
視像ニ比較シ距離ヲ判知ス
- もくそくのほうくわ、とちの、ながさと、もくひようの、

みぬぐあい、とによりまして、きよりを、しるもので、ありまして、あらまし、さの、ほうくに、よるので、あります。

一、いくかいかの、ぬんしゆうに、よりまして、ねぼねぼました、とちのきより、とか、あるひわ、めのまいに、あります、ある、きよりのわかつてねります、ものを、もちまして、これから、はかります、きよりに、ひかくをしまして、はかりますか。あるいわ、これから、はかりますきよりの、まんなかごろに、ひとつのてんを、きめまして、このてんまでの、きよりを、もくそくをしまして、ねましたきよりを、二ばいをして、はかる、きよりと、するので、あります。

二、ある、きまつた二百とか、四百とかのような、きよりにあります、もくひようの、みぬぐあいを、そのきよりにしたがつて、はつきりみねたとか、くらくみねたとか、どのくらいねくきくみねたとか、ちいさくみねたとかを、ねぼねぼ、ねりまして、これからはかります、きよりにある、もくひようとか、そのきんじよの、みぬぐあいに、くらへ、まして、きよりを、しるので、あります。

第一ノ方法ハ中間ノ土地ヲ通視シ得ルトキニア  
 ラサレハ適用シ得サルモ比較的正確ニ測量スル  
 ナ得之ニ反シ第二ノ方法ハ何レノ場合ニモ適用

シ得ヘシト雖、其結果稍々不正確ナルヲ免レス  
 蓋シ同一ノ距離ニ在ル同一ノ物體モ諸種ノ原因  
 ニ依リ其視像ヲ異ニスレハナリ故ニ以上ノ諸法  
 ヲ巧ニ應用スルトキハ迅速且正確ニ距離ヲ判知  
 シ得ヘシ

だいいのほうくのほうわ、あいだの、とちが、すべて、み  
 とうすことができる、ときで、なければ、もちいることが、  
 できませんが、ひかてきに、たどしく、たしかに、はかる  
 ことが、できます。これとちがひまして、だいいのほうく  
 のほうわ、どんな、ばあいても、もちいることが、できます

けれども、その、けつかわ、いくらか、たしかでないことが、  
 あるので、あります。それともうしますのも、ねんなしきよ  
 りにあります、ねんなしものでも、いろくの、げんいんに  
 よりまして、そのみねぐあいが、ちがうからで、あります。  
 それゆゑに、いままいに、しめしました、いろくの、ほう  
 くを、うまく、つかいますときにわ、はやくてなほたどし  
 く、たしかに、きよりを、しることが、できるのであります。

第百八(第百四十二) 一、土地ノ形状

- 一、目標ノ位置
- 二、天候、氣象

四、其他種々ノ原因

ハ目視ニ差異ヲ生セシムルモノニシテ、其ノ場合概ネ左ノ如シ

- 一、とちのありさま。
  - 二、もくひようのあるところ。
  - 三、てんきや、くうきのようす。
  - 四、そのほか、いろ／＼のげんいん。
- わ、みわぐあいには、ちがいを、できさせる、もので、ありまして、そのばあいわ、あらまし、さのようて、あります。
- 一、近ク誤リ易キ場合

1. 天候晴朗ナル時

2. 測手太陽ヲ背ニセルトキ

3. 目標其ノ背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナル

トキ

4. 遠隔セル明瞭ナル獨立物體

5. 水面

6. 平坦地

7. 波狀地



8. 特ニ中間ノ土地ヲ通視シ得サルトキ等

一、ちかくに、あやまりやすいばあいわ。

1. てんきのごくよいとき。

2. もくそくを、するものが、たいようを、うしろにして、  
れるとき。

3. はかるべき、もくひようが、うしろにある、もの、か  
んけいに、よつて、はつきりと、みぬるとき。

4. とれくに、あつて、はつきりとみぬる、ひとりだつてい  
るもの。

5. みずのれもて。

6. たいらなとち。

7. なみのように、たいらで、てこぼして、れるとち。

8. ことに、まんなかのとちが、みとをすことが、てきない  
とさなど。

二、遠ク誤リ易キ場合

1. 炎熱ノ時

2. 測手太陽ニ面セルトキ

3. 目標背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナラサル

トキ

4. 曇天

5. 濃霧

6. 曉暮

7. 森林内

8. 及狭長ノ土地等

一、とれくに、あやまり、やすい、ばあ。

二、ごくあつさが、さびしいとき。

三、さよりを、はかるものが、たいように、むかつてたりま

すとき。

四、もくひようが、そのうしろに、ありますもの、かんけい  
に、よりました、はつきり、みねませんとき。

4. くもつた、てんきのとき。

5. さりが、かゝつてをりますとき。

6. よのあけがたや、ひの、くれがた。

7. もりのなか。

8. ねよび、ほそながい、とちなど。

概シテ實戰ニ於テハ目測ハ一般ニ近キニ失シ、

又低キ姿勢ニ在リテ目測スルトキハ遠キニ失ス

ルヲ常トス

ねほむね、いくさのときにわ、もくそくわ、いつぱんに、ち  
かくみあやまりました、また、ひくいしせいにも、ありまして

もくそくを、しますときにわ、とれくに、みあやまるのが、ふつうであります。

第百九(第百四十二)

目測法ヲ教フルニハ測點ヨリ諸

方向ニ二百、四百及六百米ノ距離ニ標兵ヲ出シ

諸種ノ動作ヲ爲サシメ各自視ル所ニ從ヒ其地上

距離及目標視像ノ景況ヲ記憶セシムヘシ中距離

以上ニ在リテモ之ニ準ス

もくそくの、ほうくを、ねしねますのにわ、はかりますてんから、いろくの、ほうこうに、二百、四百および、六百

めーとるの、さよりもくひようとなります、へいそつを、だしまして、いろくの、どうさをさせまして、かくじんが、れのく、みますぐあいに、したがひまして、そのとちのさよりや、もくひようの、みなるぐあいを、ねぼねさせるので、あります、ちゆうさよりいじようのさよりを、はかりますのにもこれに、ならうので、あります。

此演習ニ於テ距離ノ遠近ニ從ヒ地上ノ同一長度及目標視像ノ變化スル景況ヲ教示スヘシ此ノ距離ヲ檢知スル爲ニハ

一、各自ノ目測セル二百米或ハ四百米等ノ距

離ニ標兵ヲ位置セシメ

二、或ハ單ニ此距離ヲ地上ニ指示セシメ

以テ其適否ヲ檢スヘシ此演習ヲ反覆行ヒタル後

ハ未知距離日測ニ移ラシム

このねんしゆうに、ねさまして、さよりの、とれい、のと、ちかいのとに、したがひまして、ちじようのねなしながさや、もくひようのみねぐあいの、かわります、ようすを、ねしねるので、あります。このさよりを、ねぼへたかを、しらべますのにわ。

一、かくじんが、もくそくをしました、二百や四百めーとる

の、さよりにもくひようとなしますへいそつを、ねかせてみましたり。

二、あるひわ、この二百や四百めーとるの、さよりを、ちじように、さし、しめさして、みたり。

しまして、その、よしあしを、しらべるので、あります。このねんしゆうを、くりかゝしくねこなひましたのちに、さよりのしれて、ねりません、ものゝ、もくそくのほうくにうつらしめるので、あります。

未知距離日測演習ノ初メニ在リテハ

一、已知距離ニ標兵ヲ置キ日測スヘキ標兵ニ比

較シテ目測ヲ容易ナラシメ

一、次テ諸種ノ距離、地形、及景況ニ於テ各種

ノ目標ニ對シ特ニ低キ姿勢ヲ以テ速ニ距離ヲ

目測スルコトニ慣レシムヘシ

まだ、しれて、ねらない、さよりを、もくそくをします、ねんしゆうのはじめにわ。

一、もはや、しれて、ねります、さよりに、もくひようと、なります、へいそつを、ねきまして、これから、もくそくをします、ひようへいにしらべまして、もくそくをするのを、やさしくさせたり。

二、つゞいて、いろいろのさよりや、とちねよび、ようすに、ねきまして、いろいろの、もくひように、たいしまして、ことに、ひくい、しせいを、しまして、はやく、さよりを、もくそくを、することに、なれさせるので、あります。

### 第三編 檢閲射撃及名譽射撃

第百十(第百四十八) 檢閲射撃ハ各中隊射撃ノ程度ヲ

檢閲スル爲聯隊長ノ行フモノニシテ毎年一回射撃教育ノ大部ヲ終リタル時期以後ニ於テ建制中

隊戰闘射撃ヲ行フヘキモノトス

けんねつしやげさとわ、かくちゆうたいの、しやげさの、ぐ  
あいをけんさをしますために、れんたいちようが、ねこなう  
もので、ありまして、まいとし、いつかい、しやげさのさよ  
ういくの、あらましを、ねわりました、ときのものちに、けん  
せいのおちゆうたい（ほかのおちゆうたいの、へいそつのおまじつ  
ていない、もとからそのちゆうたいとして、さだめられてね  
りますものばかりのおちゆうたいのこと）で、ちゆうたいの、  
せんとうしやげさを、ねこなうので、あります。

第百十一(第百四十九、第百五十) 名譽射撃ハ射撃教

育ヲ獎勵シ且射撃術進歩ノ程度ヲ檢知スルヲ目  
的トス

めいよしやげさとわ、しやげさの、さよういくを、はげまし  
まして、なほ、しやげさのわざの、すゝんでゆきます、ぐあ  
いを、しらべるのが、もくてきて、あります。

第四編 射撃ノ褒賞

第百十二(第百五十一) 射撃徽章ハ射撃術獎勵ノ爲、  
基本射撃ノ成績優等ナル各級射手ニ授與スルモ

ノニシテ左ノ如ク之ヲ區別ス

且士官、准士官、曹長及候補生ハ之ヲ除ク

第一種徽章、特別射手、聯隊十五名ニ付一個

第二種徽章、一等射手、各大隊下士十五名ニ付

一個

各中隊兵卒十八名ニ付

一個

第三種徽章、二等射手、各中隊兵卒（一年志願

兵ヲ含ム）十八名ニ付

一個

人員右ノ定數ニ充タサルモ一個ヲ授與シ又人員

端數ヲ生スルトキハ定數ノ二分ノ一以上ニ付更

ニ一個ヲ授與ス

聯隊ヲ成サ、ル部隊ニ在リテモ此率ニ準ス

しやげさの、さしやうわ、しやげさのわざを、はげまします、  
ために、さほんしやげさの、せいせきの、よいものに、その  
かくとうきゆうの、しやしゆに、あたねます、もので、あり  
まして、さのように、これを、わけます。

たゞし、しかん、とくむそうちよう、そうちようねよび、これほせいわ、これを、のぞきます。

だいいつしゆ、とくべつ、れんたいに、十五めいにつきまじきしよう。しやしゆ。

て、ひとつ。

だいにしゆ、いつとら、かくだいたいに、かし十五めいに、きしよう。しやしゆ。

つきまして、ひとつ。

かくちゆうたいに、へいそつ十八めいに、つきまして、ひとつ。

だいさんしゆ、にとら、かくちゆうたいに、へいそつ(いちねんしがんへいをふくみます。)

十八めいに、つきまして、ひとつ。

にんずが、みぎのように、きまつたかずに、なりませんでも、ひとつをあたへます。また、にんずに、はんばが、できました、ときにわ、きまつた、にんずのはんぶんいじうに、つきまして、ひとつを、あたねます。れんたいとなつて、ねりません、ぶたいてわやはり、このかすのぐあいに、ならうので、あります。

各級射手ノ優劣ハ

一、基本射撃ノ各習會ニ合格シ尙實習射撃ノ發射彈數最少ナルモノヲ最優等トス

二、若同等ナルトキハ實習射撃ノ命中點數ニ依



三、尙同等ナルトキハ豫習射撃ノ彈數ニ依リ之ヲ定ム

かく、とうきゆうの、しやしゆの、すぐれてゐるのと、ねとつて、ゐるのとわ。

一、きほんしやげきの、かくしゆうかいに、ごうかくをし、なほ、じつしゆう、しやげきで、うちました、たまのかずの、いちばんすくないものが、もつとも、すぐれて、ゐるのであります。

二、もしも、それが、ねなして、ありました、ときにわ、じ

つしゆしやげきで、あたりました、てんすうに、よりまして、きめ。

三、なほも、それが、ねなじて、あります、ときにわ、よしゆうしやげきでうちました、たまのかずに、よりまして、これを、きめるので、あります。

第百十三(第百五十二) 射撃ノ徽章ヲ授與スルニハ之

ニ聯隊長ノ名ヲ以テ其優等ヲ證シタル賞狀ヲ添付スルモノトス

しやげきの、きしやうを、あたゑますのにわ、このきしやうに、れんたいちやうの、なまねを、もちまして、その、せい

せきが、ゆうとうで、あることを、しようめいしました、し  
ようのかさものを、そへてつけるので、あります。

徽章ヲ授クルトキハ聯隊ヲ整列シ、下士ニ在リ  
テハ聯隊長自ラ之ヲ授ケ、兵卒ニ在リテハ大隊  
長ヲシテ之ヲ授ケシム

七やげきの、さしように、あたねます、とくにわ、れんたい  
を、ならべまして、かしにわ、れんたいちようが、じぶんか  
ら、これを、あたねまして、へいそつにわ、だいたいちよう  
に、これを、あたね、させます。

徽章ハ全服役間制服ヲ著ケタル場合ニ佩用スル

モノニシテ其位置ハ上位左肋ニシテ概ネ第三、

第四鈕ノ中間ノ高サトス若數個ヲ有スルトキハ

其種類ノ順序ニ從ヒ右ヨリ左ニ列スヘシ

さしように、ふくねきのあいだ、のこらず、ふくを、つけま  
したときに、つける、もので、ありまして、そのつけます、  
ところわ、うわぎのひだりの、ろつこつのところて、ねよそ、  
だいさんと、だいしぼたんと、あいだぐらいの、たかさで  
あります。もしも、いくつかのかずを、もつて、ねりますと  
きにわ、その、しめるいの、じゆんじよによりまして、(だい  
一、だい二、だい三しゆさしよなどのごとく)みぎのほう

から、ひだりのほうに、ならべるので、あります。

第百十四(第百五十二) 射撃名譽旗ハ聯隊ノ名譽射撃

成績優秀ナルコトヲ表彰スル爲名譽射撃ニ於テ

師團内ノ成績最優等ナル聯隊ニ之ヲ交附ス此旗

ハ次年ノ名譽射撃施行期日迄所有スルモノニシ

テ射撃當日ニ至ラバ之ヲ師團長ニ返納スルモノ

トス

しやげさめいよきといふのわ、れんたいの、めいよしやげさ  
の、せいせきが、すぐれてありますことを、あらわします、

ために、めいよしやげさで、しだんのよつゝのほへいのれん  
たいのうちで、せいせきの、もつとも、すぐれて、あります  
れんたいに、これを、あたゑるのであります。このはたわ、  
つぎのとしの、めいよしやげさをしますひまで、もつてれり  
ます、ものであります、めいよしやげさのとうじつに、な  
りましたなれば、これを、しだんちように、かゝるもので、  
あります。

第百十五(第百五十四、第百五十五) 名譽旗ヲ交付ス

ルトキハ之ヲ受クヘキ聯隊ト同一衛戍地ニ在ル

所屬師團ノ歩兵隊ヲ整列シ師團長之ヲ其聯隊長

ニ交付シ次テ各隊ハ分列式ヲ行フ

めいよさを、あたねます、ときにわ、これを、うけます、れんたいとれなじ、ぬいぢちに、ねりまして、そのしだんについてねります、ほへいの、ぶたいを、ならべて、しだんちよ、うわ、このはたを、その、れんたいちように、わたしまして、つぎに、そのかくぶたいわ、ぶんれつのはさを、するので、あります。

名譽旗ヲ受ケタル聯隊ニハ永ク其名譽ヲ表彰スル爲賞狀ヲ授與スルモノトス

めいよさを、うけましたれんたいにわ、いつまでも、そのめ

いよを、あらわしますために、しようのかさものを、あたねるので、あります。

第百十六(第百五十六)

名譽旗ハ平時儀式其他廉アル

演習ニ於テ聯隊ヲ編成セル場合ニ植ツルモノトス

めいよさわ、ふだん、ぎしきのとさとか、そのほか、なにか、かどちました、ぬんしゆうのときに、れんたいのこらずてまして、なにかします、ばあいには、たてるもので、あります。

名譽旗ハ聯隊内ニ於テ名譽射撃ノ成績優等ノ中隊ニ保持セシム

中隊長ハ撰拔セル下士ヲシテ之ヲ保持セシメ其位置ハ操典ニ規定セル外ハ中隊長適宜之ヲ定ムルモノトス

めいよきわ、そのれんたいの、なかで、めいよしやげきの、せいせきの、すぐれてあります、ちゆうたいにづもたせるので、あります。

ちゆうたい、ちようわ、ねらびましたかしの、これを、もたせすもので、ありまして、そのいちわ、そうてんに、きめてありますほかにわ、ちゆうたい、ちようが、てきとうに、これを、きめる、もので、あります。

第五編 銃ノ命中試験

第一百十七(第一百五十九、第一百六十) 命中試験ハ

- 一、新ニ銃ヲ中隊ニ支給セラレタルトキ
  - 二、或ハ大ニ修理ヲ加フルカ
  - 三、若ハ命中不良ノ銃アルトキ
- 其銃ノ命中精度ヲ點檢スル爲中隊ニ於テ行フモノトス

たまた、あたるか、あたらなにかに、つきましてのしけんわ。

一、あらたに、じゆうを、ちゆうたいに、わたされましたと  
 言。  
 二、あるいわ、ねいさな、しゆうりをしましたとか。  
 三、もしくわ、あたりのわるい、じゆうが、ありましたとき。  
 その、じゆうの、あたりぐあいを、しらべます、ために、ち  
 ゆうたいで、ねこなう、もので、あります。  
 命中試験ニハ命中試験的ヲ用ヒ静穩ノ天候ヲ選  
 ミ良射手ヲシテ之ヲ行ハシム射撃ノ際ニハ勉メ  
 テ誤差ノ原因ヲ避ケ照準機ノ掩蔽ヲ設ケテ太陽  
 ノ光線ヲ防キ銃錬ハ正シク之ヲ緊著スルヲ要ス

めいちゆうのしけんにわ、めいちゆうしけんてきを、もちい  
 まして、ねだやかな、てんきを、おらびまして、うまいしや  
 しゆに、しやげきを、させるので、あります。しやげきをし  
 ます、ときにわ、てきるかぎり、あやまりのねこります、も  
 ととなりまことを、さけまして、しようじゆんきにわ、ね  
 いをつくりまして、ひのさしますことを、ふせぎ、じゆうの  
 こうれんわみな、かたく、しめて、つけてをくように、きを  
 つける、ことが、ひつようであります。

射手ハ二百米ノ距離ニ於テ銃ノ下帯ノ下部ヲ托  
 架上ニ托シ、黒點ノ下際ヲ照準シ連續五發ヲ射

撃ス

但シ各彈ノ彈著ヲ指示スルコトナシ

しやしゆわ、二百めーとるの、きよりに、ねさまして、しけんをします、じゆうの、かたいの、したのところを、たぐのうねに、よりかけ、まして、ひょうてきのくろいてんの、したべりの、ところを、しようじゆんをし、つゞけざまに、五はつを、うつのであります。

たゞし、すべてたまのあたつたところを、かんできのほうから、きごうで、さししめしわ、しないので、あります。

此射撃ニ於テ彈著悉ク標的面ノ矩形内ニ收容セ

ラレ且縦零米四二、横零米三六ノ間ニ集合スレ  
ハ其ノ銃ハ良好ナルモノニシテ其命中成績疑ハ  
シキモノハ他ノ良射手ナシテ更ニ射撃セシメ尙  
命中セサルトキハ不良銃ト認定シ其原因ト認ム  
ヘキモノアレハ之ヲ記シ彈痕圖ヲ添エ修理或ハ  
交換ヲ請求スヘシ

このしやげきて、たまが五はつとも、みな、ひょうてきのめん、かいて、あります、ほそながいかくの、かたちの、なかに、はいりまして、なほ、たてが四十さんちめーとる、よ

こが三十六さんち、めーとるの、あいだに、あつまりました、なれば、その、じゆうわ、よいじゆうて、ありまして、その、たまの、あたり、ぐあいのへんなものわ、ほかの、うまいしやしゆに、さらに、うたせまして、それでも、あたりませんときにわ、よくないじゆうと、きめまして、そのわるくなつた、げんいんが、わかつて、ねりました、なれば、そのことを、かき、たまのあたつたぐあいをかいてあります、づをつけまして、なほしてもらうか、あるいわ、かゝてもらうてつじさを、するので、あります。

第六編 射撃材料

第一百十八(第一百六十二)

標的ノ種類左ノ如シ

- 一、圈的
- 二、人像的
- 三、圈頭的
- 四、散兵的
- 五、機關銃的
- 六、騎兵的
- 七、砲車的



### 八、命中試験的

ひよてき、しゆるらわ、そのごときものであります。

- 一、かんでき。
- 二、じんどうてき。
- 三、かんとうてき。
- 四、さんべいてき。
- 五、さかんじゆうてき。
- 六、さへいてき。
- 七、ほうしやてき。
- 八、めいちゆう、しけんてき。

### 第百十九(第百六十三) 人像的ハ分テ立的、膝的、伏

### 的及頭的ノ四種トス

じんどうてきわ、わけまして、ひとがたつてれる、かたちを、かいたひようてき、ひとのひざからうねを、かいたひようてき、むねからうねをかいたひようてき、たよび、あたまのみをかいた、ひようてきとの、よつつて、あります。

### 第百二十(第百七十三) 射撃場及標的ニ附屬スル射撃

#### 用具ハ

- 一、記號板
- 二、號旗

- 三、示號標シゴウヒョウ
  - 四、監的鏡カンテキキョウ
  - 五、治痕竿チコンカン
  - 六、及監的用具オモヒカンテキキョウ  
 トス其他電話機、双眼鏡、秒時計、氣象器械等  
 ナ備へ得レハ便ナリ
- しやげさじよう、と、ひようてきとに、ついで、ねります、しやげさのため、いりようの、どうぐむ。
- 一、さごうをします、ぬのついた、いた。

- 二、あいずをしますはた。
- 三、しごうひよう。
- 四、かんできてしやじようのほうを、みます、かじみ。
- 五、たまの、あたつた、あなをなほしたり。あまのめたらな  
いさごうをするもの。
- 六、ねよび、かんできてつかう、のりやかみのるい。  
で、あります。そのほか、てんわのきかい、めがね、びよう  
どけい、さしようをはかる、さかい、などを、じゆんびする  
ことが、できました、なれば、べんりであります。

第七編 彈藥

第二百二十一(第八十) 射撃教育ノ爲、毎年支給スヘ

キ彈藥ノ定額ヲ次ノ如ク定ム

しやげきの、さよういくをするために、まいとし、わたします、たまの、さまつた、ぶんりようわ、つぎのように、さめて、あります。

現役ノ者ニハ定員ニ依リ之ヲ支給ス但候補生、

一年志願兵及豫備役、後備役、補充兵役ノ者並

六週間現役兵ニハ現員ニ従フ

げんじきのものにな、さまつてれります、にんずによりまして、これをわたします、たゞし、こうほせい、一ねんしがん

へい、れよび、よびぬきや、こうびぬき、ほじゆへいぬきのものと、六しゆうかんげんぬきへいにな、げんざいに、れり

| 豫備役     | 現             |       | 役種階級 | 一人ニ對スル實包 | 一人ニ對スル空包 | 一人ニ對スル狹窄實包 |
|---------|---------------|-------|------|----------|----------|------------|
|         | 候補生、一年志願兵、初年兵 | 下士二年兵 |      |          |          |            |
| 豫備役     | 一五〇           | 一五〇   | 一五〇  | 一人ニ對スル實包 | 一人ニ對スル空包 | 一人ニ對スル狹窄實包 |
| 演習召集補充兵 | 四〇            | 四〇    | 四〇   | 四〇       | 四〇       | 四〇         |

|         |    |    |    |
|---------|----|----|----|
| 後備役     | 三〇 | 二五 |    |
| 教育召集補充兵 | 五〇 | 四〇 | 三〇 |
| 六週間現役兵  | 三〇 | 二五 | 一五 |

ます、じんいんによるので、あります。

右ノ外

- 一、檢閲射撃ノ爲實包二萬九千發
- 二、名譽射撃ノ爲實包八千發

三、證明射撃ノ爲實包千發

ヲ聯隊ニ支給ス

みぎに、しめしました、ほかに。

- 一、けんむつしやげきの、ために、じつだんを、二まん九千ぱつ。
  - 二、めいよしやげきのために、じつだん八千ぱつ。
  - 三、しようめいしやげきのため、じつだん千ぱつ。
- を、れんたいに、あたえます。

第八編 記録及報告

第百二十一(第百八十四)

中隊ハ射撃ニ關シ左ノ諸表

ヲ備フヘシ

一、射撃成績表

本表ハ士官、准士官、下士、及兵卒ニ區分シ  
 兵卒ニ在リテハ射撃ノ等級ニ從モ其ノ順序ニ  
 一册ニ綴リ毎年新調スルモノトス  
 豫備役、後備役、補充兵役ノ者竝六週間現役  
 兵モ之ニ準ス

二、命中試験成績表

本表ハ第五編ニ示ス命中試験ノ成績ヲ記載ス  
 ルモノトス

三、戰鬪射撃其他特ニ施行スル射撃成績表

ちゆうたいの、しやげきのこと、かんけいしましてわ、さ  
 のとうりのいろくの、ひようを、つくつてれくので、あり  
 ます。

一、しやげき、せいせきひよう。

このひようわ、しかん、じゆんしかん、かし、ねよび、へ  
 いそつとに、わけまして、へいそつにわ、しやげきのと  
 うきゆうに、したがひまして、そのじゆんばんに、いつち

つに、つゞりまして、まいとし、あらたに、つくるものであります。

よびぬきのもの、こうびぬきのもの、ほじゆうへいぬきものものとそれから、ろくしゆうかん、げんぬきへいも、これにならうもので、あります。

二、めいちゆうしけん、せいせきひよう。

この、ひようわ、だい五へんの、ところで、しめしました、めいちゆうのしけんをしました、せいせきを、かきのせるもので、あります。

三、せんとうしやげきや、そのほか、とくべつに、れこなひました、しやげきのせいせきひよう。

第百二十三(第百八十五)

基本射撃ノ成績ハ射撃場ニ

於テ射撃成績ノ草稿表ニ記入シ歸營後、直チニ

射撃成績表ニ淨寫スルモノトス

特別射撃、應用射撃ニ在リテモ之ニ準ス

きほんしやげの、せいせきわ、しやげきのばしよで、しやげきのせいせきを、かきいれます、したがきのひように、かきいれ、まして、とんぬいに、かゝりましてのちに、すぐ、しやげきのせいせきひように、うつしなほす、もので、あります。

とくべつしやげき、ねうようしやぎに、ありましても、また

みぎのにならつて、するので、あります。

第百二十四(第百八十六) 各中隊ニ下士兵卒ノ射撃成

績一覽表ヲ製シ射撃實施後直ニ其發射彈及點數ヲ記入シテ舍内適宜ノ所ニ揭示スヘシ

かくちゆうたいにわ、かしゃへいそのつ、しやげきのせいせきのいちらんひようを、つくりまして、しやげきをしましたのち、すぐに、そのうつた、たまで、てんすうとを、かさいれまして、へいしやの、なかで、てきとうの、ところに、かけて、れくので、あります。

第百二十五(第百八十七) 射撃手簿ハ射手ノ全員(豫

備役、後備役、演習召集補充兵ヲ除ク)ニ所持

セシムルモノトス

しやげきの、しゆぼわ、しやしゆの、のこらずのにんず(よびなきところびなきと、ねんしゆうのために、しようしゆうされました、ほじゆへいわのぞきます)に、あたせるので、あります。

第百二十六(第百八十九) 中隊長ハ毎年射撃教育終了

後、射撃報告、彈藥射耗報告ヲ大隊長ニ呈ス  
ちゆうたいちようわ、まいとし、しやげきの、きよういくの、れしまいに、なりました、のちに、しやげきのほうこくと、

つかつた、たまのほうこくを、だいたいちように、たすので、あります。

第九編 三十年式歩兵銃使用ニ關スル

特別ノ規定

第二百二十七(附録第二) 三十年式歩兵銃使用ノ爲特ニ

次ノ諸件ヲ規定ス

三八式歩兵銃ニ三十年式銃實包ヲ用フル場合ニ

在リテモ亦此規定ヲ適用スルモノトス

三十ねんしき、ほへいじゆうをつかいますため、とくべつに、つぎのいろくの、ことがらを、さめます。

三八しき、ほへいじゆうに三十ねんしきのじゆて、つかう、じつだんを、もちいますときも、また、このさめました、ことを、つかうので、あります。

第二百二十八(同第二) 狹窄射擊照準點次ノ如シ

さようさくしやげきのとき、ねらうてんわ、つぎのようてあります。

|                  |                    |                    |                     |
|------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 照 尺              | 照 準 點              | 照 尺                | 照 準 點               |
| 三〇〇 <sub>米</sub> | 上 〇〇三 <sub>米</sub> | 一 <sub>米</sub> 一〇〇 | 下 〇、四〇 <sub>米</sub> |



|      |   |      |      |   |      |
|------|---|------|------|---|------|
| 四〇〇  | 上 | 〇、〇一 | 一三〇〇 | 下 | 〇、四八 |
| 五〇〇  | 下 | 〇、〇二 | 一四〇〇 | 下 | 〇、五七 |
| 六〇〇  | 下 | 〇、〇五 | 一五〇〇 | 下 | 〇、六七 |
| 七〇〇  | 下 | 〇、〇九 | 一六〇〇 | 下 | 〇、七九 |
| 八〇〇  | 下 | 〇、一四 | 一七〇〇 | 下 | 〇、九一 |
| 九〇〇  | 下 | 〇、一九 | 一八〇〇 | 下 | 一、〇四 |
| 一〇〇〇 | 下 | 〇、二五 | 一九〇〇 | 下 | 一、一九 |
| 一一〇〇 | 下 | 〇、三二 | 二〇〇〇 | 下 | 一、三四 |

第百二十九(同第三) 基本射撃ニ於ケル合格點數ヲ次

ノ如ク定ム  
 きほんしやげさに、れきましての、ごうかくの、てんすうを、  
 つぎのように、さだめます。

|             |    |     |     |     |     |
|-------------|----|-----|-----|-----|-----|
| 歩兵隊ニ於ケル合格點數 | 現  |     | 後備役 | 補充兵 | 現役兵 |
|             | 二等 | 一等  |     |     |     |
| 習會順次        | 特別 | 豫備役 | 後備役 | 補充兵 | 現役兵 |
| 射手種類等級      | 二五 | 演習  | 後備役 | 補充兵 | 現役兵 |

|    |    |    |           |           |    |
|----|----|----|-----------|-----------|----|
| 一三 | 一三 | 一二 | 一〇        | 九         | 八  |
| 一〇 | 一一 | 一二 | 人像一<br>一三 | 人像一<br>一六 | 九  |
|    |    | 一〇 | 一一        | 一三        | 一四 |
|    |    | 一一 | 一二        | 一四        | 一五 |
|    |    |    |           |           |    |
|    |    |    |           |           |    |
|    |    |    |           |           |    |
|    |    |    |           |           |    |

|           |           |           |           |           |    |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|
| 七         | 六         | 五         | 四         | 三         | 二  |
| 一二        | 一三        | 一三        | 一八        | 二二        |    |
| 人像一<br>一五 | 人像二<br>一三 | 一三        | 一四        | 二〇        | 二三 |
| 人像二<br>一五 | 人像二<br>一六 | 一五        | 一五        | 二二        | 二四 |
|           |           | 一二        | 人像一<br>一二 | 一一        | 二〇 |
|           |           |           | 一二        | 人像一<br>一二 | 二〇 |
|           | 一二        | 人像一<br>一二 | 一二        | 一八        | 二〇 |
|           |           |           | 人像一<br>一二 | 一〇        | 一九 |

|    |
|----|
| 一四 |
| 九  |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |

第三百三十(同第四) 單一銃ノ射撃散布界次ノ如シ

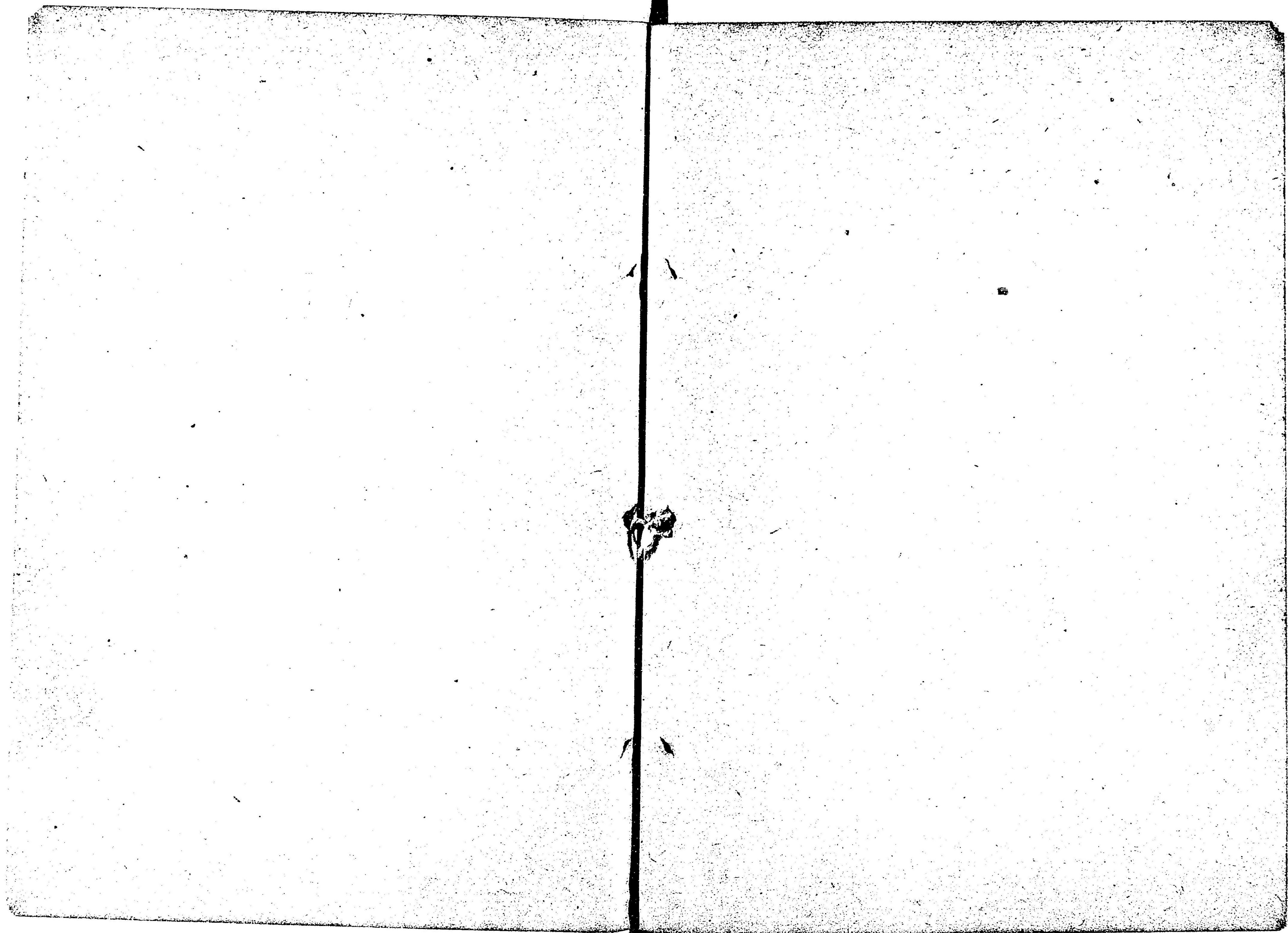
ひとつの、じゆうて百ぱつ、たまをうちましたとき、そのた  
まが、ちります、さかいわ、つぎの、とうりて、あります。

|     |      |         |       |
|-----|------|---------|-------|
| 距離  | 離    | 總彈ヲ含ム方形 |       |
|     |      | 縦       | 横     |
| 三〇〇 | 一〇〇* | 〇、八〇    | 〇、七六  |
|     |      | 〇、六八*   | 〇、六八* |

|      |      |      |
|------|------|------|
| 四〇〇  | 一、〇四 | 一、〇〇 |
| 一五〇〇 | 一、四〇 | 一、二四 |
| 六〇〇  | 一、八〇 | 一、五二 |

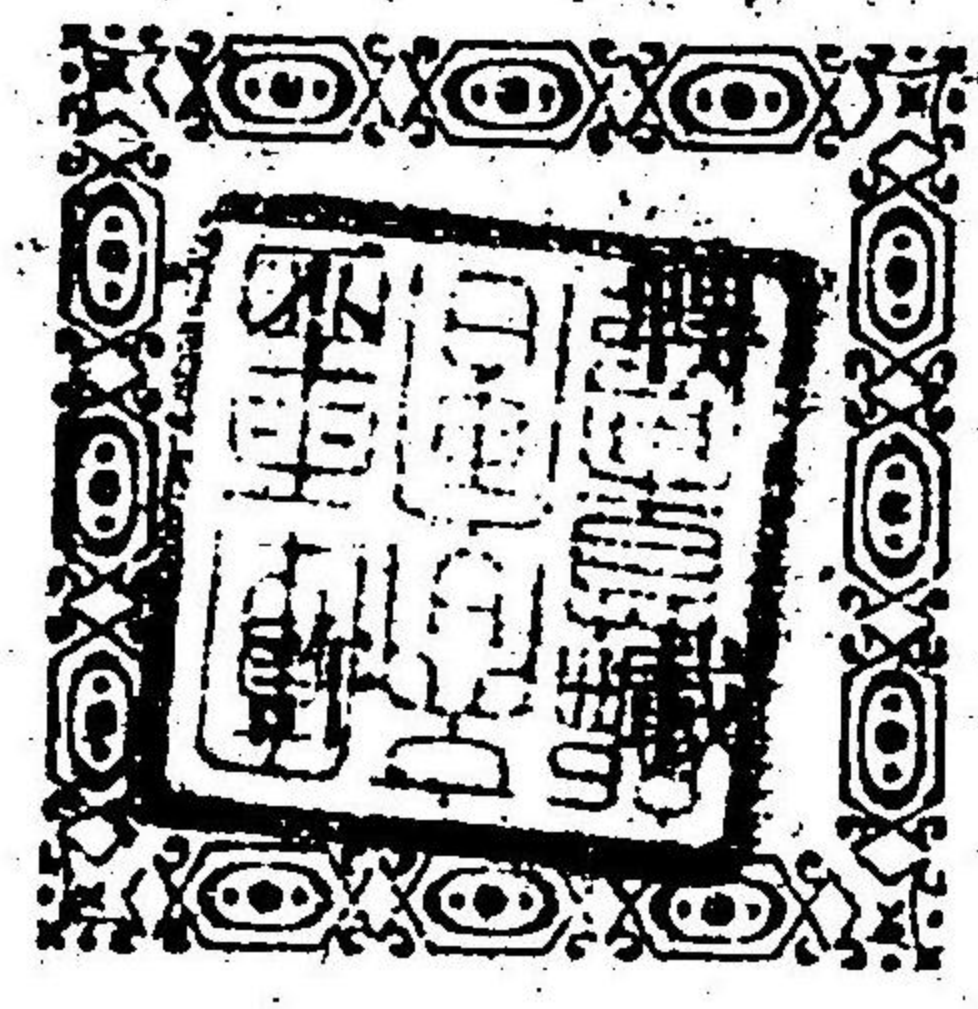
軍隊學科手簿 丙之部

振假名附步兵射撃教範之摘解終  
下士兵卒用



明治四十四年十月三十日印刷  
明治四十四年十一月五日發行

正價金貳拾錢



著者兼發行者 上田 賴三  
東京市牛込區若松町百五十番地

印刷者 山田 三太郎  
東京市芝區櫻川町十七番地

印刷所 山田活版所

發行所

軍

需

商

會

東京市牛込區若松町百五十番地

電話番町一四七一番  
振替口座東京五四一六番

# 新刊廣告

軍隊學科手簿甲之部

●振假名附乙之部 步兵操典之摘解 全一冊 正價金貳拾錢 郵稅金四錢

同 振假名附丙之部

●振假名附丙之部 野外要務令之摘解 全一冊 正價金貳拾錢 郵稅金四錢

同 振假名附丁之部

●振假名附丁之部 步兵射擊教範之摘解 全一冊 正價金貳拾錢 郵稅金四錢

同 振假名附

●振假名附 軍隊內務書之摘解 全一冊 正價金貳拾錢 郵稅金四錢

●軍隊精神教育口授資料 全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

●新編步兵中隊之戰鬥法 全一冊 正價金貳拾錢 郵稅金四錢

## 軍需商會出版概要

下士上等 野外要務問答 全三冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

下士上等 改步兵教練問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

下士上等 步兵射擊問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

下士上等 測圖學問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

下士上等 軍隊內務問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

下士上等 軍隊內務一覽表 全一冊 金五錢 同貳錢

下士上等 衛生學問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

附リ赤十字條約

下士上等 軍制學問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

(再版)步兵工作問答 全一冊 金拾錢 同貳錢

步兵通信手簿 全一冊 金拾參錢 同貳錢

下士教育手簿  
體操劍術教育要領  
軍刀術附乘馬軍刀術

體操劍術問答

散兵各個教練問答

步兵夜間教育問答

軍隊內務の躰

通俗軍隊學便覺

上等兵學科教程

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

陸軍大學校入學試驗問題集

全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 四錢

全一冊 金貳拾錢 同 四錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 四錢

全一冊 金貳拾錢 同 四錢

全一冊 金貳拾錢 同 八錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

全一冊 金貳拾錢 同 貳錢

附錄。戰術射擊用計算簿

步兵夜間動作ノ教育

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

機關銃之戰術的用法

步兵機關銃教育方案

機關銃及取扱法問答

步兵機關銃問答

露軍ケル機關砲ノ使用

步兵之射擊指揮

實際的步兵射擊學

戰術射擊擬習及實習

夜間戰術

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

機關銃之戰術的用法

步兵機關銃教育方案

機關銃及取扱法問答

步兵機關銃問答

露軍ケル機關砲ノ使用

步兵之射擊指揮

實際的步兵射擊學

戰術射擊擬習及實習

夜間戰術

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

機關銃之戰術的用法

步兵機關銃教育方案

機關銃及取扱法問答

步兵機關銃問答

露軍ケル機關砲ノ使用

步兵之射擊指揮

實際的步兵射擊學

戰術射擊擬習及實習

夜間戰術

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

機關銃之戰術的用法

步兵機關銃教育方案

機關銃及取扱法問答

步兵機關銃問答

露軍ケル機關砲ノ使用

步兵之射擊指揮

實際的步兵射擊學

戰術射擊擬習及實習

夜間戰術

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

機關銃之戰術的用法

步兵機關銃教育方案

機關銃及取扱法問答

步兵機關銃問答

露軍ケル機關砲ノ使用

步兵之射擊指揮

實際的步兵射擊學

戰術射擊擬習及實習

夜間戰術

距離目測ノ射擊効力

步兵中隊下士教育方案

|               |      |                                 |  |       |        |         |          |         |         |        |      |            |
|---------------|------|---------------------------------|--|-------|--------|---------|----------|---------|---------|--------|------|------------|
| 青年<br>將校<br>虎 | 兵語之解 | 步兵<br><small>斥候</small><br>教育問答 | 步兵<br><small>傳令使<br/>連絡兵</small><br>教育問答 | 交通學問答 | 古兵教育要領 | 野戰築城學問答 | 軍人精神教育之要 | 軍人精神修養訓 | 下士精神訓戒集 | 精神教育問答 | 步兵操典 | 步兵操典續編(再版) |
| 全一冊           | 全一冊  | 全一冊                             | 全一冊                                      | 全一冊   | 全一冊    | 全一冊     | 全一冊      | 全一冊     | 全一冊     | 全二冊    | 全一冊  | 全一冊        |
| 金貳拾五錢         | 金拾五錢 | 金貳拾錢                            | 金貳拾錢                                     | 金貳拾錢  | 金貳拾五錢  | 金貳拾五錢   | 金貳拾五錢    | 金貳拾五錢   | 金貳拾五錢   | 金貳拾錢   | 金四拾錢 | 金四拾錢       |
| 郵稅四錢          | 同貳錢  | 同貳錢                             | 同貳錢                                      | 同貳錢   | 同貳錢    | 同四錢     | 同四錢      | 同四錢     | 同四錢     | 同貳錢    | 同六錢  | 同六錢        |

|             |        |      |         |           |           |       |       |       |             |      |        |       |
|-------------|--------|------|---------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------------|------|--------|-------|
| 明治四十<br>年改訂 | 野外要務私解 | 部隊戰鬪 | 步兵戰術講義錄 | 住民地及森林之戰鬪 | 戰術問題解決ノ要旨 | 斥候長   | 戰術之彙抄 | 戰術之彙抄 | 日露戰勝敗ニ關スル觀察 | 用兵問答 | 兵學研究資料 | 統帥例   |
| 全四冊         | 全二冊    | 全四冊  | 全二冊     | 全一冊       | 全一冊       | 全一冊   | 全一冊   | 全一冊   | 全一冊         | 全三冊  | 全三冊    | 全一冊   |
| 金壹圓四拾錢      | 金八拾錢   | 金壹圓  | 金八拾錢    | 金拾五錢      | 金參拾五錢     | 金貳拾五錢 | 金貳拾五錢 | 金貳拾五錢 | 金五拾錢        | 金九拾錢 | 金七拾五錢  | 金參拾五錢 |
| 郵稅拾貳錢       | 同八錢    | 同拾貳錢 | 同八錢     | 同貳錢       | 同四錢       | 同四錢   | 同四錢   | 同四錢   | 同四錢         | 同八錢  | 同八錢    | 同四錢   |



266  
613

|                |              |           |          |         |      |      |              |
|----------------|--------------|-----------|----------|---------|------|------|--------------|
| ● 三十八式步兵銃効力曲線表 | ● 新編步兵射擊教範詳解 | ● 步兵之行軍教育 | ● 精神軍隊教育 | ● 劍術指導法 | ● 同  | ● 同  | ● 軍隊精神教育口授資料 |
| 全一冊            | 全一冊          | 全一冊       | 全一冊      | 全一冊     | 全一冊  | 全一冊  | 全一冊          |
| 金參拾五錢          | 金四拾錢         | 金貳拾五錢     | 金貳拾五錢    | 金貳拾錢    | 金四拾錢 | 金四拾錢 | 金參拾錢         |
| 郵稅四錢           | 同            | 同         | 同        | 同       | 同    | 同    | 同            |
| 錢              | 六錢           | 四錢        | 四錢       | 五錢      | 四錢   | 四錢   | 四錢           |

